

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501418		
法人名	有限会社すずらん		
事業所名	グループホーム潮風		
所在地	津市阿漕町津興214番地2		
自己評価作成日	平成31年1月31日	評価結果市町提出日	平成31年4月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kihon=true&JigyosyoCd=2470501418-008&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 31 年 2 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者のみならず、ご家族様も含めた大家族として捉えている中では日常的な交流がある。入居者を中心に職員ともざっばらんな関わり方となっている。実家のように気軽に立ち寄り頂き一緒にお茶をする中で心身の状態等近況報告をさせて頂いている。近隣の方が多く入居されている事もあり友人知人の方も立ち寄り頂き行事などにも参加して頂いている。手作りの家庭料理を毎日美味しく食べて、行事に合わせた料理を味わう中で、心も身体も温かい気持ちになり、健康寿命を延ばして頂きたいと思っています。又終の棲家としてご本人ご家族の最期の迎え方を尊重している。緊急時の24時間医療体制も構築している。場合によっては主治医の指導の元、慣れた環境の中、ご家族職員に囲まれた中で、心穏やかな終末期を過ごして頂き、尊い看取りへと繋げさせて頂いている方もおみえになります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

津市中心部より阿漕浦海岸方面へ、歴史的に由緒ある結城神社北方の住宅地に事業所が立地している。本部は桑名市内で身障者・高齢者向け事業を運営しており、事業所は本部とは遠隔地で単独型1ユニットのグループホームを運営している。開設以来15年を経過し、利用者は近隣住民が多く、家族や医療機関等からの紹介で利用に至っている。日頃から家族が自由に訪れて利用者との交流継続を支援し、最期も事業所で過ごす希望があれば看取りケアを提供し、過去に18件程対応した。管理者と職員は経験年数が長く、重度化や看取りケアも心得、日々工夫を凝らして取り組んでいる。運営推進委員の市職員や地域医療を推進する協力医療機関の協力を得て、地域住民を対象に認知症や介護保険制度の学習会や減塩みそ作りに取り組み、地域住民との関係作りにも励んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人がその人らしく暮らせる個々に合わせたオンリーワン支援、笑顔あふれる暮らしを大切にしている。入居者を中心にご家族様職員が思いをひとつにした日常的関わりの中で我が家にいるようにのんびりとした過ごし方を実践している。	理念として利用者個人の尊厳保持を第一とし、オンリーワン支援を目指すため、職員は利用者が今やりたいことが出来るように配慮している。常に職員の資質向上に務めており、地域の連携を密にして地域力を高める努力の一環として認知症サポーター養成講座等に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣ご家族様を含めた地域の中で、その時々々の状況に合わせた学習会やイベントの開催を工夫している。地域を交えた交流としては、地域内医療福祉生協協力の元、減塩手作り味噌作りも毎年恒例行事となっている。	利用者は地元住民が多く、その家族も含めて地域住民と日常的に交流している。事業所の地域貢献として、住民対象に学習会や減塩みそ作り開催、認知症カフェへ参加し住民との関係作りに励んでいる。事業所の大家が隣接している畑で年中野菜を栽培して届けてくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中の認知症対応型施設として、介護保険制度の事、認知症の事、解りやすく情報発信できる機会を工夫している。認知症サポーター教室、介護保険制度についての勉強会等を開催したり、日常的な相談等気軽に立ち寄って頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	潮風の近況、現況報告、地域内のリアルタイムな情報共有を行う中での課題等、その都度必要な情報交換を実施する中で解決に向けた話し合いの機会としている。介護施設事業所として必要な情報を発信したり必要な学習会も開催している。	運営推進会議規則と活動方針を規定し、年6回偶数月第3水曜日午後15時に開会し、メンバーは利用者・家族・住民代表、自治会長、民生委員、市職員等で、内容は状況報告と防災や身体拘束適正化等課題検討、認知症サポーター養成や介護保険制度の学習会に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点など日常的な相談に対して気軽にに応じて頂いている。その都度解りやすく細やかなアドバイスや指導が頂けるのでとても心強い。	運営推進委員の市職員に講師を依頼し、地域住民へ介護保険制度の学習会を開催した。台風24号で高潮警報発令し沿岸地域避難指示を受け緊急避難した際に、市危機管理室に現況確認・連絡調整を行った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについては、潮風としての指針、その具体的な例を示したマニュアルを常備してすべての職員の共通認識としている。個々の危険の回避、安全対策を講じる方法等、ご家族の意見も含めて職員間で随時検討している。	身体拘束適正化のための指針と車いす使用時における安全対策について事例を運営推進会議で報告した。適正化委員会は年4回開会し、研修会にて職員の資質向上を図る等日頃の取組についても報告し話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法律の内容、課題背景を示し、虐待のない介護を徹底するようにしている。介護リスクを全体の問題として捉える中で、情報を共有し職員の介護ストレスが虐待に連鎖しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前入居されていた方が制度を利用されていた時はリアルタイムでの情報共有が可能であったが現在は対象者もなくマニュアルを常備する中で制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に至るまでのプロセスをお聞きしていく中で、ご本人や家族の思い、要望等を十分に傾聴し話し合いを深めるようにしている。潮風とご家族が思いをひとつにした相互理解をした上での契約としている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中で思いを言い出しやすいように声かけを行っている。面会時を利用してご本人の状態を示し近況報告を行う中でご家族の思いや要望を聞かせて頂き要望の実現に向けた支援を工夫している。	台風24号で実際に利用者全員を緊急避難した際に家族の協力を得て行き、後日最もリスクが高い水害時の避難方法について家族アンケートを実施し、結果を反映して本年1月に避難マニュアルを改訂した。毎年、敬老の日に家族会を開き、会食・交流・話し合いの機会を持っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で情報の共有、情報交換を密にしている。情報共有ノートを日常的に活用しその時々々の意見や提案、困り事などをリアルタイムで記入しその都度の問題解決へと繋げている。	毎朝、申し送りの際に、職員は利用者のケアに関する事以外の業務全般に関する事等の意見も提言し話し合っている。日頃、気づいた事は「情報共有ノート」に記入し、全職員が確認した上で、管理者は職員の意見が反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り個々の職員のライフスタイルを優先した勤務形態を実現している。個々の職員のモチベーションが高められるような支援を心掛け、頑張った職員が報われるような賃金体系へと繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苦手分野ある職員には、力量のある職員や管理者が克服に向けたサポートを心掛けている。その内容については全体の問題として捉え、話し合う機会としたり、内部学習として取り上げる等、資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型協議会、小規模ケア研究会、介護福祉会、ケアマネ部会、認知症家族の会、地域の医療従事者との交流を深める中で見聞を広めたり、研修会や行事等を活用する中でサービスの向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントした情報等を含めた中で、本人の願いやご家族の思いをゆったりと傾聴するように心掛けている。寄り添う中で信頼関係を築き安心感をもって頂けるような関係作りへと繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの苦悩や葛藤をゆったりと傾聴する中で、不安に思っている事、求めている事等を把握、本音を吐き出して頂けるような対話を心掛ける中で信頼関係が構築出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	表面的な訴えだけに捉われる事なく、対話していく中から真に必要な事を見極めていく。相談内容を傾聴する一方で専門職としての見解を示し、必要な支援へと繋げていくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の家事など個々に出来る事は職員と協働で行って頂き、共に仕事をする中で得意を發揮して頂いている。そのような機会がご本人の意欲を引き出し自信の回復、生活力への喚起へと繋がっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者、ご家族、職員がひとつの家族であり、日常的に気軽な交流がある。ご本人にとって潮風は我が家であり、ご家族にとっては実家でもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望やご家族の情報等を聞かせて頂く中で、今までの本人を取り巻く関係等を勘案、可能な限り入居までの関係が途切れないように、大切にしながらの支援に努めている。	利用者は地元住民が多く家族や近隣の人達が面会に訪れたり、周辺を散歩中に知人に会い声を掛けてくれるので、会話が弾むように職員は支援している。津祭りの際には、近くの馴染みの八幡宮から山車が発発するので毎年見物に行き、利用者が昔を回想する良い機会となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の身体状態と性格、趣味や職業など、今までの生活環境をも勘案する中で相性の良い方を見極め、より良い関係作りへと繋げていけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院に伴ない退居された方、潮風で看取りをさせて頂いた方、そのご家族様が立寄って下さったり、相談に応じたり、日常的に交流させて頂いている。運営推進会議や行事等にも参加して頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族の思い、希望をしっかりと傾聴する中から、ご本人にとっての最適な方法を引き出していくように努めている。	本人の思いは言葉のみでなく、表情等で職員が推測して対応することもある。オンリーワンの支援を目指し、タイミングをみて個別にお茶や食事の味見に誘う等、利用者が満足し気分よく過ごせるように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や過ごし方など、ご本人とご家族からの情報を基に、今まで慣れ親しんだ暮らし方が尊重できるように常に心掛け、日々の生活に反映出来るように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の暮らし方や価値観を尊重した日課を工夫する中で、生活力の喚起が図れるように側面的な支援を心掛けている。その時々々の思いや希望を取り入れた過ごし方が可能となるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族がどのように過ごしたいと思っていられるか、聞かせて頂く中で状態の変化に応じたリアルタイムな検討を重ね、ご本人らしい過ごし方の実現に向けた介護計画を立案している。	個々の利用者のアセスメントシートに全職員が記入した内容と、直接家族に記載して頂いた本人・家族の意向を基に介護支援専門員が計画を作成している。モニタリングは概ね6ヶ月毎に実施し、カンファレンスはリアルタイムで行い、家族を含めチームで介護計画を作成している。	介護支援専門員が中心となって、全職員による個々の利用者のアセスメント、家族が記載した本人・家族の意向等、全員で介護計画を作成しているプロセスが記録で良く判る。担当者会議の開き方を工夫し、記録することを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を基本に捉える中で、リスク管理に必要な情報の共有、特記の記録、個々の状態に応じたリアルタイムでの詳細な援助方法を情報共有ノートとして日常的に活用して個別な支援へと繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人がその人らしく暮らせる個々に合わせたオンリーワン支援を工夫している。日常的にご家族との交流もあり、その都度の状況に応じた最適な方法を話し合う機会ともなっており、柔軟な対応が可能な環境となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方、自治会、民生委員、入居者ご家族、医療福祉関係者、ボランティアさん等の交流、ご協力を通して社会性の充実を図り、安心して安全に楽しんで暮らせる生活作りに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の入居者、ご家族の意向を反映した上で、協力医療機関による24時間の在宅医療サポート体制がある。定期往診及び24時間対応による随時の相談、診療対応も可能となっており安心出来る体制となっている。	本人・家族の意向を尊重し主治医を決め、事業所の協力医に掛かっている利用者は6名で、定期的に訪問診療を受けている。従来の認知症専門医に掛かっている利用者は、家族の協力を得て通院している。訪問歯科診療を受けている利用者もいる。協力病院が24時間対応で入院機能もあり、家族の安心の拠り所となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関、主に担当看護師には日常的に相談している。リアルタイムな情報交換。情報共有を密にする中で、その都度適切な指導やアドバイスをあり、安心出来る体制が構築されている。又地域の看護師との交流も多い。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師、看護師、ソーシャルワーカー等医療関係者との交流を日常的に行う中で、最善な対応が可能となるような関係作りの構築に日々努めている。人となりを含めた介護サマリーを作成し情報提供、療養生活を側面的に支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、日頃からご家族、主治医との話し合いを重ね、万が一に備えている。並行して、個々の終末期のあり方についての情報を職員間で共有、その方とご家族にとっての最善な終末期ケアに向けて意思統一を図っている。	入居時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」「医療対応確認票」に基づき、もしもの時の対応について本人・家族の意向を確認している。最期まで事業所で過ごしたいと希望があれば主治医の指示の下に職員全員の意思統一を図り、家族と共に看取りケアを提供している。職員は終末期ケアの研修を受けて認識を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	慌てず的確な行動が可能となるように、緊急時に必要なその対応方法を全職員に具体的に示し、情報共有する中で認識を深めている。一方でその方法を事務所及び施設内に具体的に掲示し、とっさの場合に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	具体的な方法をリアルタイムで情報発信し、ご家族・職員・地域の中で情報共有している。入居者・職員には避難訓練、ご家族には年1回9月に防災教室を実施、地域には運営推進会議を活用し情報の共有及び協力体制を構築している。	事業所が沿岸地域に位置するため、特に水害に対する不安が大であり、防災訓練は毎月実施し、玄関には避難時に利用者別の持ち出し物品を常備し職員に周知している。家族向け訓練や運営推進会議でも話し合い、防災に対する周囲への意識啓発をし、協力体制を構築中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライバシー、プライド、人格の尊重については職員間で十分に意思統一を図って対応している、個々に応じたその人にふさわしい対応をその都度工夫している。	管理者は職員に対して「個々の利用者を尊重した話し方をし、自分がされて不快な気分になることは、発言したり、行動してはならない。利用者の表情は介護者の鏡である。」と伝え、職員も心得て利用者に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の気持ちに寄り添う中で、その時々のお思いを共有、共感し、真の思いが意思表示できるように、側面的な働き掛けをその都度工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自信を持って生活して頂けるように、職員はさりげなく、その日の身体状態や精神面に配慮しつつ、ご本人の希望を取り入れた過ごし方が可能となるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着心地、安楽な着脱を優先しつつも、好みを優先した洋服をコーディネートさせて頂いている。ヘアスタイルも身だしなみとして、行きつけの美容院へ行かれる方！こまめに潮風カットを楽しんで頂いている方！と色々です。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リクエストに応えたり、地域の方に頂いた旬の食材を献立に加えたり、行事に合わせた食事やおやつ等、手作りならではの温かい料理を楽しんでいる。職員も同じテーブルを囲み会話しながらの食事でも楽しみながら貴重な時間となっている。	事業所の方針として、利用者に美味しい物を食べて満足して頂きたい。その為に、レトルトではなく、職員が献立を考え、食材を購入し、交代で調理をし、利用者と共に和やかに食事をしている。家族会では家族と共にバイキング料理を楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー・栄養配分・水分量・好み・主治医の意見等を勘案する中で、個々の摂取の目安を決めている。個々の口腔機能に応じた調理形態と好み等を考慮し、食事を楽しみとして頂けるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の残差物の除去、朝夕の歯磨き・うがいで口腔内の洗浄等個々に必要な口腔ケアを実施している。夜間は義歯を外し、洗浄後ミルトン消毒している。個々の状態に応じた方法で口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のある方・曖昧な方を問わず特別な事情のない限り、日中はトイレ使用を基本とし、自然な排泄が可能となるように支援している。定期的な対応の他、気配や訴え等を見逃さず、随時対応する中で側面的な自立支援へと繋げている。	尿意があり、排泄動作が自立している利用者は3名いる。他はタイミングを見計らって職員がトイレへ誘い、排泄支援をし、夜間は安眠・熟睡することを重視し、巡回時に排泄介助をしている。便秘対策として手作りヨーグルトを全員に提供している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用する中で、個々の排泄リズムを確認、又食生活を工夫する中で整腸に努めている。必要に応じて腹部マッサージを試みたり、体操、歩行・散歩等、楽しみながら行える日課作りも工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	健康管理の手段のひとつとして入浴を楽しんで頂いている。お湯をいっぱいにしてのんびりくつろがれる方、温度を上げて熱くしてから出られる方、思い思いに生まれ気分転換にもなり、健康維持におおいに役立っている。	利用者は週に3～4回入浴機会がある。職員は、個々の好む入浴の仕方を心得て、気分よく入浴が出来るように支援している。入浴を拒む利用者には、「今日の入浴剤はどれにする？」と、本人に選んでもらい浴室に誘う等声掛けを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせる中で、日中は楽しみな時間を共に過ごすように心掛けている。季節を感じて頂く機会ともなる為一日一回は日光浴や散歩を楽しみ、夜間の安眠に繋げるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋にて薬効、服用方法、薬害、リスク等の理解を深め認識を徹底している。日常の関わりの中で、いつもと違う微妙な変化を察知する視点を常に持ち、日々関わるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた家事を手伝って頂く中で、自信の回復、自信の喚起へと繋げている。職員も含めた大家族の中で出来る家事を分担し、協働する事が自身の役割意識、連帯感、達成感、安心出来る居場所へと繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴や散歩は近隣の方とのふれあいの機会ともなり、季節を感じて頂く機会ともなっている。季節行事を楽しむための外出や随時の外出行事も工夫している。ご家族様の協力のもと、外出外泊される方も居られる。	玄関前のベンチに腰掛けて日光浴をしながら皆で談笑したり、お茶を飲み楽しんでいる。周辺や海岸を散歩し、四季折々の自然や海の変化を体感したり、行きかう人との会話を楽しむ機会となっている。毎年津花火大会は、事業所に居ながら見物でき、家族も交えて皆で大歓声で楽しんでいる。桜公園への花見外出も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、ご家族様の意向に沿って対応させて頂いているものの、本人が希望されるもの、食べたいものなどを献立に加えたり、おやつに取り入れたりと対応する中では、特に使い道もなくお金を所持される方はみえない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人との交流が活発に継続して頂けるように支援している。その都度の訴えに耳を傾けながら、その時々のおいの実現に必要な支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、リビング、各居室には、季節を感じて頂けるような落ち着いた展示物を工夫している。入居者の得意を發揮して頂く場ともなっている。行事のスナップや個々の思い出の写真なども多数掲示しており、満足気に眺めては会話の糸口ともなっている。	ホールの天窗から自然に光が差し込み明るく温かい雰囲気である。中央に洗面所と鏡を配置し、手洗いが容易に出来て清潔や感染予防にも配慮している。角にテレビや書棚を配置し昼食後利用者がソファに腰掛けて新聞や雑誌を読みくつろいでいた。壁面には利用者の作品や行事等の写真が飾られて和やかな雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームは日常的に集う場所となっており余暇の交流を楽しむ空間となっている。ソファは気の合う人のおしゃべりやご家族や知人とのふれあい場となっている。我が家のように思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだこだわりの物を配置したり、楽しく過ごした思い出の写真等を掲示したり、落ち着ける場所となるように工夫している。ご家族や知人の来訪時にはお茶を囲んでゆったりと過ごして頂けるような空間も工夫している。	本人・家族の了解を得て各室の入口に顔写真を掲示して目印にしている。室内はベッド・クローゼット・テーブルと椅子・エアコンの設備を配し、各自が自宅から馴染みの物を持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫している。壁面に手摺を取付、手摺につかまり廊下へ出られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を含めた身体及び精神機能を勘案する中で、個々の動きに合わせた自立に向けた動線の確保を基本とする中で、安心して安全に過ごして頂けるような支援を工夫している。		